

## 指標1 博物館の基本機能の強化と倫理性の確保

## 定量的評価

No.	取組	評価項目	単位	R5 実績	R6 実績	R7 目標	R7 実績	R8 目標	考え方・基準
1	資料の体系的な収集と安定的な保管	収集資料の公開活用率	%	18	47	40	未計測	45	当該年度と前年度の収集資料で公開可能な件数のうち、公開活用(展示、刊行物等)した件数の比率
		収蔵資料台帳デジタル化件数	件	81,410	82,680	84,000	未計測	85,000	年度末のデジタル台帳登録件数
2	調査研究の計画性と質の向上	学芸職員の学術的著述本数	本	5	3	3	4	4	館報・図録・報告書や外部研究誌等への著述本数。連載は1本。1人1本目標。
		学芸職員が講演等の講師を務めた講演・講座等の件数	件	11	15	15	未計測	15	外部での研究発表や講師依頼も含む。連続講座は1件。ギャラリートークは含まず。
		学芸職員が講師を務めた講演・講座等の参加者数	人	-	993	300	未計測	300	上記の参加者数合計
		学芸職員が調査や研修に出向いた件数	件	35	41	20	未計測	20	外部での資料調査、熟覧、視察、研修等。同一調査に複数回でも1件。
3	学術的な根拠に基づく魅力的な展示と教育普及	常設展の満足度	点	8.1	8.1	-	未計測	8.2	来館者アンケート(0～10点)の年間平均値。
		常設展の更新回数	回	4	6	3	4	4	常設展の展示品やパネル等の更新回数
		企画展の満足度	点	7.4	8.1	7.7	7.8	7.7	来館者アンケート(0～10点)の平均値。展示毎に算出し、その平均とする。
		企画展の開催件数	件	6	8	7	8	7	テーマ展、小展示の合計
		体験学習事業満足度	点	8.8	9.2	8.7	未計測	8.7	来館者アンケート(0～10点)の平均値。事業毎に算出し、その平均とする。

## 定性的評価 (A達成 Bおおむね達成 Cもう少しで達成 D達成していない)

No.	取組	評価項目	R8 自己	R8 委員	判断基準
1	資料の体系的な収集と安定的な保管	統一した方針に基づく資料管理			・資料管理要綱や関連する各種内規に基づいた資料管理ができているか
		組織的な受入判断			・収集時の調査や開取りが励行され、受入検討会議で可否を決定しているか
		台帳の整備とデジタル化			・台帳の不備の修正、デジタル台帳への移行が進んでいるか
		未整理・未登録資料の解消			・未整理・未登録資料の整理・登録が進んでいるか
		収蔵資料の見直し			・外部収蔵施設を含めた資料の点検や精査により、収蔵資料や収蔵施設の取扱いの見直しが進んでいるか
		収蔵環境の維持			・鍵の管理、機械警備、定期的な温湿度の点検や虫菌害等のモニタリングが行われ、適切な措置が行われているか
2	調査研究の計画性と質の向上	計画的で適切な調査研究テーマの設定			・浜松の歴史文化の理解を深めるために必要なテーマであり、成果の公開まで計画に組み込まれているか
		時間や環境、予算の確保			・業務バランスの見直しにより、調査研究に費やす時間、機材やスペース等の環境、必要な予算が確保されているか
		学芸職員の資質向上			・研修や研究会への参加や論文の執筆、有識者からの指導、先進事例の視察などが積極的に進められているか
		他機関等との共同研究推進			・他の研究機関や研究者との連携によって、進めている研究の質が高められているか
3	学術的な根拠に基づく魅力的な展示と教育普及	調査研究成果の展示や教育普及への反映			・当館で行う調査研究の成果や各分野の最新の研究成果が、展示や教育普及に活かされているか
		展示の内容や手法の不断の見直しが行われている			・展示の内容や手法について、前の展示の反省点を活かすとともに、常に新しい動向や情報を収集し、改善を進めているか
		展示と教育普及の紐づけ			・展示、講座、体験学習等の内容や時期を連動させることで、相乗効果が高められているか

## 指標2 誰もが利用・活動しやすい場の提供

### 定量的評価

No.	取組	評価項目	単位	R5 実績	R6 実績	R7 目標	R7 実績	R8 目標	考え方・基準
1	多様性、社会包摂への対応	包摂的な事業の開催	件	-	-	-	-	1	外国人、障がい者、高齢者、未就学児等を対象とした包摂的な教育普及等の事業の開催
2	市民の交流・活動機会の創出	博物館ボランティア延べ活動人数	人	357	348	380	未計測	400	年間のボランティア登録者の延べ活動人数
		博物館ボランティア養成講座実施回数	回	4	4	6	4	6	ボランティア活動や館内の展示等についての研修
3	オンラインサービスの充実	アップした動画の平均再生回数	回	635	712	650	未計測	700	年度内にアップした動画の年度末時点の再生回数の平均値
		収蔵品検索システムでの資料公開件数	件	11,996	-	12,150	未計測	2,000	内容の修正を行うためにR6年度からR7年度途中まで休止。ゼロベースで再開
4	ホスピタリティの向上	接客満足度	点	-	-	-	-	8.0	来館者アンケート(0～10点)の年間平均値。
		レファレンス対応件数	件	69	61	70	未計測	80	来館、メール、電話等による件数合

### 定性的評価 (A達成 Bおおむね達成 Cもう少しで達成 D達成していない)

No.	取組み	評価項目	R8 自己	R8 委員	判断基準
1	多様性、社会包摂への対応	多言語化の推進			・展示解説、館内表示、刊行物等の多言語化が進められているか
		適切な障がい者等への対応			・館内の動線やパネル・表示類が配慮され、点字、音声、ハンズオン等の導入が進められているか
		子ども向けの展示解説機能の充実			・専用の解説シートやキャプションの導入が進められているか
2	市民の交流・活動機会の創出	多様な層に向けた教育普及の充実			・世代や理解度等の違いに対応した事業が進められているか
		ボランティア活動の拡充			・応募人数の増加、研修機会の充実、新たな活動の開始などが進められているか
		所蔵図書の活用促進			・来館者が閲覧できる図書や資料の充実化により、市民が自ら学習する機会を創出しているか
3	オンラインサービスの充実	デジタルアーカイブの充実			・デジタルアーカイブが進められているか(浜松文化遺産デジタルアーカイブ、文化遺産オンライン、全国文化財総覧等)
		収蔵品検索システムの改善			・収蔵品検索システム「ある蔵」の不の改善が進められ、使用性を高められているか
		来館できない人を対象としたサービスの提供			・インターネットで展示室や展示品に関する情報発信や講座等の動画配信が進められているか
4	ホスピタリティの向上	レファレンスの充実			・展示ガイド、遺跡ガイド等の充実化が図られているか ・質問や問合せには的確かつ丁寧に回答できているか
		快適な空間の創出			・公園・館内の環境整備(清掃、植栽管理)は適切に行われ、適度な休憩スペースが確保されているか
		接遇の向上			・受付やレファレンス等の来館者対応が親切・丁寧に行われているか

### 指標3 地域や社会への貢献と新たな価値の創造

#### 定量的評価

No.	取組	評価項目	単位	R5 実績	R6 実績	R7 目標	R7 実績	R8 目標	考え方・基準
1	積極的な情報の公開・発信	観覧者数(本館)	人	26,239	25,413	33,000	未計測	35,000	本館合計
		利用者数(本館)	人	-	42,846	-	未計測	70,000	アウトリーチや入館のない館外での事業への参加者を含んだ人数
		SNSフォロワー数	人	2,142	3,269	3,800	未計測	4,000	X、インスタグラムの年度末時点のフォロワー数
		報道機関の取り上げ回数	回	32	71	50	未計測	60	新聞・ラジオ・TV・雑誌等の取り上げ回数
2	さまざまな主体との連携・協働	他組織との連携事業数	件	1	4	5	未計測	5	展示、講座、イベント等で調査研究は含まない
		学校移動博物館、校外学習等の受入件数	件	-	107	120	未計測	120	学校移動博物館、校外学習等受入数の合計
		教材貸出件数	件	92	86	100	未計測	100	学校等に教材を貸し出した件数
		教員向け研修実施件数	件	1	1	1	1	1	博物館主催のものに限る
3	新たな価値や魅力の創出	ユニークバニユーで使用された件数	件	-	-	-	-	2	公園、館内で行われたユニークバニユーの合計
		外部からの視点の導入機会	件	-	-	-	-	2	若者や民間企業等外部からの視点を聞き取った機会の件数
4	アウトリーチの推進	講座等依頼件数	件	7	31	10	未計測	15	依頼を受けて講座に出向いた件数
		分館における企画展開催件数	件	7	11	10	14	10	分館における企画展の件数(自主事業、巡回展含む)
		観覧者数(分館)	人	17,599	9,129	22,000	未計測	23,000	分館5館合計

#### 定性的評価 (A達成 Bおおむね達成 Cもう少しで達成 D達成していない)

No.	取組	評価項目	R8 自己	R8 委員	判断基準
1	積極的な情報の公開・発信	アンケート等の分析による効果的な広報手段の実践			・事業のターゲットによって、インターネット、紙媒体、屋外広告等の使用を使い分け、効果的な広報を行っているか
		ホームページの再構成			・長年の運用によって階層が複雑化しているホームページの整理が行われ、見やすく改善されているか
		SNSの活用			・X、インスタグラムを中心に、他のアプリも含めた活用を進められているか
2	さまざまな主体との連携・協働	学校との連携			・団体見学、移動博物館、教材貸出、教員研修等の事業が進められているか
		地域コミュニティとの連携			・地元の自治会等と連携して事業が進められているか
		他館との連携			・他の博物館との連携により効果的な事業が行われているか
		周辺の歴史文化施設や文化財等のハブ機能の創出			・蜷塚遺跡、伊場遺跡の周知を進め、重要性を伝えられているか ・地域の歴史文化施設や文化財にかんする情報の集積と公開が行われ、回遊性を高められているか
3	新たな価値や魅力の創出	異分野との連携			・産業、観光、福祉、まちづくり、文化芸術、環境等の分野との連携により、地域社会の振興や課題の解決に努められているか
		外部からの視点の導入			・博物館の新たな価値や魅力の探求のため、若者や民間企業等外部からの視点を積極的に取り入れているか
		ユニークバニユーの促進			・公園も含めた市民主体のユニークバニユーについて一定のルールの下で進められているか
4	アウトリーチの推進	ミュージアムショップの充実			・ミュージアムショップのレイアウトが整えられ、商品の充実化が図られているか
		地域と協働した分館や収蔵施設等での事業推進			・各地域の担当者との連携によって、分館や収蔵施設における展示や講座、イベント等の事業を充実化させているか
		出張展示や講座の積極的対応			・外部からの展示や講師対応などの依頼に積極的に対応しているか